

Ⅱ. 薬学研究科臨床薬学専攻の人材養成の目的と3ポリシー

【薬学研究科臨床薬学専攻の人材養成の目的】

薬剤師としての知識を基礎に、実務に直結する研究課題を自らが発見・解決する高度な専門職業人として、科学的思考・研究マインド・研究能力を身に付け、地域医療の担い手として、各種専門・認定薬剤師を目指す薬剤師、臨床薬学の研究者、治験・臨床開発従事者などの高度な専門的人材、及び薬学部学生、大学院薬学研究科学生への教育・研究を担う大学教員、大学における研究者の養成を目的とする。

大学院薬学研究科臨床薬学専攻

ディプロマ・ポリシー

臨床薬学専攻では、別に定める修了要件を満たした学生に博士（薬学）の学位を授与し、以下の知識、能力、態度が身についていることを保証します。

1. 臨床薬学・医療薬学に関する豊かな学識とともに、科学的視点をもって最新の薬物療法を統合評価できる応用能力を身に付けている。
2. 地域医療の現状を理解し、地域医療が抱える薬物療法に関する問題を発掘・解決できる優れた研究能力を身に付けている。
3. 指導的な立場で他者と協力し、薬物療法に関する問題の解決に当たることができるマネジメント力、リーダーシップを身に付けている。

カリキュラム・ポリシー

大学院薬学研究科の人材養成に関する目的に基づき、課題研究を遂行するために必要な基礎知識を修得し、最新の薬物治療を学修するとともに、創造的研究の科学性と倫理性を備えた企画能力、推進能力、研究成果の論理的な表現能力、英語での論文発表能力を高める教育・研究を行います。

1. 臨床薬学・医療薬学における諸課題を解決するための基礎となる豊かな学識を培う科目を配置します。
2. 科学的視点をもって最新の薬物療法を実践できる応用能力が身に付く科目を配置します。
3. 薬剤師に求められる高度な専門性と自立した研究能力を磨くための科目を配置します。
4. 薬物療法に係わるための倫理的配慮やチーム医療における薬剤師の役割を理解するための科目を配置します。

臨床薬学専攻 アドミッションポリシー

① 基本方針

薬剤師としての知識を基礎に、実務に直結する研究課題を自らが発見・解決する高度な専門職業人として、科学的思考・研究マインド・研究能力を身に付け、地域医療の担い手として、在宅医療における薬剤師業務の普及・指導に関わる意欲ある薬剤師、専門薬剤師などをを目指す高度医療に携わる意欲ある薬剤師、および医療薬学・臨床薬学の研究者および6年制薬学教育に関わる大学教員を目指す薬剤師を養成します。そのために、以下のような資質・能力・意欲を持った学生を受け入れます。

② 求める人材像と学力の3要素

求める人材像		思考力 主体性		
		知識 技能	判断力 表現力	多様性 協働性
在宅医療における薬剤師業務の普及・指導に関わる意欲ある薬剤師	→	△	○	◎
専門薬剤師などをを目指す高度医療に携わる意欲ある薬剤師	→	○	◎	△
医療薬学・臨床薬学の研究者および6年制薬学教育に関わる大学教員を目指す薬剤師	→	◎	△	○
	→			
	→			

③ 学力の3要素と求める学習成果

学力の3要素		小論文	面接	成績証明書	推薦書	
知識・技能	→	小論文	面接	成績証明書	推薦書	
思考力・判断力・表現力	→	小論文	面接	推薦書	研究計画書	
主体性・多様性・協働性	→	面接	推薦書	研究計画書	業務経歴書	

④ 求める学習成果と入学者選抜方法

入学者選抜方法	小論文	面接	成績証明書	推薦書	研究計画書	業務経歴書				
一般入試	◎	◎	○	○	△					
一般入試(社会人特別選抜)	◎	◎	△		△	○				

⑤ 入学前に習得すべき内容・水準

- ・薬剤師として必要とされる基礎的知識
- ・臨床研究を行うための思考力・判断力と取り組み意欲
- ・学部学生、地域医療を担う薬剤師を支援する意欲
- ・日本国の薬剤師免許を有する者および入学までに取得する見込みの者

※ 記号(◎, ○, △)は重要度の順序を表しています。